

環境リサイクル肉牛協議会第 11 回総会

特定非営利活動法人 環境リサイクル肉牛協議会第 2 回通常総会

日時 2010 年 5 月 29(土)11:15～

場所 ランチョ エルパソ 2F

会議 次第

1. 開会挨拶
2. 議長・議事録署名人の選出、書記指名
3. 議事
 - 1) 第 1 号議案 2009 年度事業報告及び収支決算に関する件
 - 2) 第 2 号議案 2010 年度事業計画及び収支予算に関する件
 - 3) 第 3 号議案 役員の変替
 - 4) その他
4. 閉会

第 1 号議案

2009 年度事業報告

- | | | | |
|----|-------------|-----------|-----------|
| 1. | 会員(2009 年度) | 個人会員 | 15 |
| | | 団体会員 | 12 |
| | 1) | 生産者・生産者団体 | 8 |
| | 2) | 食肉流通業者 | 5 |
| | 3) | 消費者団体 | 1 |
| | 4) | 学研・指導機関 | 6 |
| | 5) | 飼料・食品業者 | 7 |
| | | 合計 | <u>27</u> |
- 入会 瀬野豊彦氏
退会 宮下盛次氏 (2010 年逝去)

2. 組織体制の整備と部門制の確立

理事が遠隔地に分散しており拡大理事会の開催等で道立畜試、JA めむろの会員等の協力を得て会の運営に当たった。役割分担は以下のとおり事務局と畜産試験場でほぼ全てに対処。

- 1) 会の運営・全体情宣活動 = 事務局
 - 2) シンポジウム運営 = 畜産試験場
 - 3) アグリサイクル発行 = 事務局
 - 4) 「e-び-ふ」認定委員会 = 畜産試験場
 - 5) 生産情報収集・資料作成・ホームページ = 事務局
3. 機関誌の発行
機関誌「アグリサイクル」8号は年度内に発行できなかった。
4. インターネットホームページによる情報提供 <http://www.recycle-gyu.com>
2-3ヵ月毎の年4-5回の更新を計画したが、年度内更新は1回のみとなった。
アクセス件数 2010年5月25日現在 5,961
5. 総会・理事会の開催
- 1) 総会 第10回総会 2009年5月30日(土)10:00~
場所 帯畜大 フィールド科学センター 実習講義室
 - 2) 理事会 5/29, 10/15, 計2回開催。予算の修正、活動状況点検
 - 3) 幹事会 10/15, 11/15, 1/8, 計3回開催。シンポジウムの企画・準備・運営。
6. 2009年度レインボー・パル基金助成対象活動の取り組み
「道内遊休農地からのトウモロコシサイレージ生産と牛肉生産の連携構築に向けた調査研究」でトウモロコシサイレージの肉牛生産への利用に関する学術調査と河川敷農地での完熟トウモロコシの試験栽培を行った。完熟トウモロコシのでん粉粕含量が16%上がりエネルギー価は4%向上することが明らかになった。副産物利用・肉牛肥育飼養関係の学術情報調査の結果はHPに掲載。(別紙 レインボー基金報告書 参照)
7. 「e-び-ふ」認定事業の取り組み
副産物の飼料利用で大規模経営を達成している自給飼料活用型モデル農家として薄一郎会員のすすき牧場(福岡県・宗像市)を申請(6/19)に基づき選定のための事前調査を実施(9/15)。認定委員会の報告(10/12)で、DM自給率54.8%、TDN自給率34.5%、粗飼料自給率55.2%でe-び-ふ認定基準を満たしていることを確認。e-び-ふ認定第4号として認証書送付(12/11)。(別紙 すすき牧場の概要 参照)
8. 資源循環型牛肉生産シンポジウムの開催
- ・ 資源循環型牛肉生産シンポジウム 2009
 - ・ テーマ : 飼料自給率向上を目指した牛肉生産を考える
 - ・ 11月12日(木)13:00~16:30 会場:帯広東急イン 2F
 - ・ 主催/(特)環境リサイクル肉牛協議会、(社)配合飼料供給安定機構、(社)北海道酪農畜産協会 後援/北海道立畜産試験場ほか9団体
 - ・ 参加者 160人、
 - ・ 現地検討会:11月13日(金)9:00-12:00 芽室町 オークリーフ牧場、帯広市 トヨニシファーム、参加者 30名
9. 比較食味テスト

e-びーふ牛肉と配合主体飼養牛肉との食味比較を総会・臨時総会およびシンポジウム開催と併せて実施。

10. 肉牛飼養技術研修会の開催

1) 第1回 5月 30日(土) 参加者25名

第110回日本畜産学会における肉牛飼養関連研究発表内容の解説
道立畜産試験場 齋藤早春・大井幹記研究員

2009 年度収支決算報告

(別紙資料) 決算書・監査報告、貸借対照表および財産目録 参照

第2号議案

2010 年度事業計画

平成 22 年度事業計画書 (別紙 参照)

1. 会員募集(2010 年度)

生産農家・流通業者・消費者団体・学術行政指導機関・飼料生産・流通関係者等
広範囲に理解者を参集して目標会員数 合計 30 名以上。

2. 組織体制の整備・強化

(ア) 強化の必要な部門の充実

1) 総務担当 → 協議会の会務・運営(事務局)

2) 事業部・機関誌編集・ホームページ担当 → 情宣活動全般

(イ) 理事 6 人体制を確立し、帯広近隣から理事を選出し、事務局の充実を図る。

3. 通常総会と理事会の随時開催

1) 2010 年度第 11 回定期総会(NPO 法人第 2 回通常総会)

2) 理事会 必要に応じ開催する。

協議会活動の進捗状況の報告と分析。

4. 「e-びーふ」認証事業の活性化; 認証農家の増加 : 定款5条1-①

1) モデル農場の展示紹介、パネル設置等の啓蒙活動を推進する。

2) 自給飼料活用による飼料自給率目標30%以上達成の農家選定を推進する。

3) e-びーふ認証の発想の原点を顧みて認証制度を再点検する。

5. 学術情報の収集と飼養技術研修会の開催 : 定款5条1-②

6. 2010 年度レインボー・パル基金助成事業の取り組み : 定款5条1-③

課題「エコフィードで生産された牛肉の食肉特性に関する調査研究」 畜産試験場、畜産大学との共同研究を企画する。

7. シンポジウムの企画：定款5条1-④

- 1) 2010年11月上旬開催予定 会場;帯広市周辺
- 2) 北海道肉牛研究会十勝大会との共同開催を模索し、生産者の参加促進を図る。
- 3) 配合飼料供給安定機構のエコフィード研修事業の活用を図る。
- 4) テーマの考え方：自給飼料による牛肉生産体制の構築と副産物の飼料活用
口蹄疫の発生拡大の実態把握と北海道における防止対策
デントコーンラップサイレージの調製技術と肉牛肥育用飼料価値
- 5) e-びーふの比較食味テストを意見交換会に組み込み、配合主体と副産物利用生産牛肉の比較。

4. 機関誌発行・ホームページ編集：定款5条1-⑤

- 1) 会報発行 年1回(機関誌「アグリサイクル」8・9号合併号を発行する。
インターネットを利用し情報を公開・発信する体制の充実を図る。

2010年度予算案

平成22年度 特定非営利活動にかかる収支予算書（別紙 参照）

第3号議案

役員の変替

- * 日高 智 監事 公務多忙のため退任し、新任に奈良岡武任会員を選出し、
前任者の残任期間 2010年4月1日から2011年3月31日までの任期とする。

理事長	左	久		
副理事長	嶋村	義文		
理事	花房	俊一		
理事	榛澤	保彦		
理事	山本	裕介		
監事	日高	智	→	監事 奈良岡 武任
監事	内藤	順介		

その他